

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500184		
法人名	(株)サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインプレミアム中津川グループホーム		
所在地	岐阜県中津川市駒場1666-3965		
自己評価作成日	令和4年8月7日	評価結果市町村受理日	令和4年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500194-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ、とても環境の良い高台にあるグループホームです。介護者の都合でケアに関わるのではなく、利用者様が自分らしく楽しく過ごしていただけるよう職員全員でお一人お一人に合わせたケアを考え取り組んでいます。日中は施設前の花を見て談笑したり、野菜を育て収穫したり、今までご自宅でされてみえた事として洗濯物干し、たたみ、床のモップ掃除をしていただいたり、筋力低下の予防として体操をして一日を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニバーサルデザインが採用された開放的なホームは、利用者が安心・安全に暮らせる室内環境となっている。すべての共用空間は、あたたかい木のぬくもりが感じられる造りであり、その中で利用者の生活のQOLを高められるよう、職員は利用者一人ひとりに合わせた支援をしている。利用者は職員と一緒に、庭の花壇で花を育て、畑で野菜を育てて収穫をしたり、シンボルツリーである大きな銀杏の樹で四季の移ろいを五感で味わっている。未だ、収束はしていないが、コロナ禍から学んだ命の関わり方や職員同士の協力体制、貴重な体験等を今日の介護に活かしながら、一丸となって支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目に入る場所に掲示し、毎月の全体会議では、必ず全員で唱和し、理念に添った支援を心掛けている。	理念を玄関の壁面や事務所に掲示している。コロナ禍での様々な経験を踏まえて、より深くケアのあり方について話し合っている。利用者一人ひとりの思いを汲み取り、職員間で共有しながら、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会、外出は中止しています。地域の方との交流も行っていません。	新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流や面会、外出を自粛している。地域の窓口となっている区長から、情報の提供を受けたり、回覧板で確認をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在活動は行っていませんが、活動ができるようになった際には、施設での行事に参加して頂ける様に、計画していきたいと、考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度5月は運営推進会議を開催しています。施設での活動の様子、生活状況等報告を行い、出席者から意見を頂いています。7月は開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、資料を送らせていただきました。	5月に運営推進会議を開催したが、その後は書面会議とし、利用者の状況や行事・事故報告・身体拘束等に関する報告を各委員に送付している。意見や質問をFAX等で受けながら、内容を検討し利用者サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今後運営推進会議、グループホーム部会に関わっていただき、意見をいただきたい。必要時には随時連絡、確認をしている。	市の担当者に、事業所の実情や取り組み状況等について相談、報告を行い、新型コロナ最新情報やアドバイスを得ながら、協力関係を築いている。介護相談員は対面では難しい為、手紙での交流を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の勉強会では、身体拘束について、資料を配布し、学んでいます。日常的に離床センサーを活用し、転倒事故防止に取り組んでいるが、それでも身体拘束が必要な場合は、家族様・本人様への説明了承を得て、書面にて同意を得て対応しています。全体会議、運営推進会議で報告しています。	身体拘束をしないケアについて、職員は勉強会で学んでいる。スマホを活用して、利用者の日常生活をタイムリーに把握できるよう工夫したり、離床センサーによる転倒予防にも取り組んでいる。弄便行為のある利用者の場合、止むを得ず、夜間はつなぎ着用や転倒防止の為にベッド柵を使用するが、早期解除できるよう方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後虐待について、定期的に勉強会を実施し、職員同士コミュニケーションを多くとり、一人で抱え込まないように、環境作りに努めていきたい。		

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題として、職員一人一人が理解できるよう、勉強会で学べるよう考えていきたいですし、入居者様の背景、生活状況を把握した上で、ケアに関わるよう対応していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に説明をさせていただき、理解を得ております。。不安、疑問点については、しっかりお答えし対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回ご家族様に施設での様子を写真つきのお便りを送っています。ご利用者様の事で、体調の変化、相談等も電話で連絡させて頂いています。	毎月、利用者の写真にコメントを添えた家族向けの便りを送っている。文字も大きく読みやすく工夫している。コロナ禍での外出制限や筋力低下への心配、認知症状が進む不安、職員の離職等で家族からの質問や意見があるが、その都度、電話で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ミーティングで職員一人一人の意見、提案を聞き、全員で考え決定しています。ミーティングでの内容は、全体会議で代表に報告し、意見を伺っている。	毎月の全体会議やミーティングは、職員の意見や提案を聴く機会としているが、時間制限のある中で実施しており、十分な意見交換を行う事が難しくなっている。また、介護技術向上の為の研修時間を設ける事も課題となっている。	全体会議には、代表や事務長も参加して開催している。職員同士が気軽に話し合える時間をとる事が難しい状況であるため、事前に職員間で課題点や意見を挙げておくなど工夫し、更なるチームワーク向上と運営への反映に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には、代表に確認していただき、把握している。各自向上心を持って働けるような取り組みを今後考えていく必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格所得を進めています。グループホーム部会の研修も受けたいと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ部会、グループホーム部会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にご本人様、ご家族様のご要望、ご希望を聞き取り、内容を職員に周知し、信頼関係を築いていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学時にご家族様が困っていることご本人様の思いをよくお聞きし、要望に添えるよう話し合いをし、良き関係性を築ける様こまめに連絡したい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のご本人様、ご家族様の様子、情報を収集し何が必要かを知り支援につなげていきたいですし、ご家族様と話し合いの上で、支援を考えていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時様同士洗濯物たたみ、床のモップ掃除、畑で採れる野菜の収穫と一緒にさせていただきながら、良い関係を築ける様、職員は見守りお手伝いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様を精神的に支えられるのは、ご家族様と思っています。iパット、電話でこまめに話し、施設の生活の中で起きる問題について報告し、ご意見を頂いている。毎月入居者様の様子を写真つきのお便りを送らせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされてきた馴染みの方からのお電話、iパットでのお話し手紙で対応している。	コロナ禍にあるため、家族や親族との面会、馴染みの人との交流を制限しているが、電話や手紙、タブレットを活用してのやり取りや窓越しの面会等、関係継続を支援している。利用者は、2か月毎の理美容師の訪問を心待ちにし、髪を染めてもらう人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の大半をフロアで過ごされます。入居者様の様子、関係性を見ながら、座席の配置に考慮し楽しく過ごせるよう関係作りに配慮している。全員で行う体操、レクレーションに参加し、関わりあえるよう行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても相談していただけるよう、お伝えしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、表情などから、思いや意向をくみ取り、その中で何が出来るか職員全員で考え、支援に努めている。	職員は、日常生活支援の中で、利用者一人ひとりと丁寧に向き合っている。コロナ禍で学んだ貴重な経験を忘れることなく、共有しながら利用者がしたいこと、何が出来るかを考え、個々の意向や思いを汲み取り、本人がやりがいを持って、生き生きと暮らせるような支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様より生活歴、馴染みの暮らしについて良く聞き取り、情報を得て職員全員が共有し、理解した上で、本人らしさが出るケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が、利用者様の心身状態の変化が見られた時は、報告し、情報を全員で共有、体調の変化を観察するよう努めている。一人一人の一日の過ごし方は、その時の状況に合わせて、要望に添い対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望変化があれば話し合い、モニタリングを行い、職員全員で情報を共有し日々の生活状況の中で、支援方法を考え介護計画作成につなげている。	ケア記録と介護計画を職員間で共有し、モニタリングを行いながら日々支援している。家族や利用者話し合いの上、現在は管理者が中心となって、職員と共に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、気付いたこと、体調の変化等具体的にノートに記録し、全員に伝わるように毎日申し送りし、毎日検討しながらよりよいケアにつなげ計画書の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様、本人様からの要望は、できる限り対応出来るよう、職員間で相談しよりよい方法で、対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域の方との交流は出来ない状況ですが、今後地域の方との関係性をよりよくできる様、散歩、外出地域に出掛ける機会、ふれあいをふやしていけるよう取り組みたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関の医師により、定期的に往診を依頼している。医師との連携もとれ適切な医療が受けられている。	かかりつけ医は本人・家族の選択により決めている。協力医の往診が定期的であり、週1回、訪問看護師による健康管理を行っている。歯科医師の訪問もある。職員による受診支援や夜間の緊急時にも適切に支援を行い、家族の安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在施設では看護師が配置されていないが、訪問看護師が月に4回訪問して頂いている。入居者様の体調の変化あれば連絡し、訪問して頂き、医師との連携もとれ、適切な医療が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には担当関係者と情報交換、相談等行っていききたい。本人様、ご家族様、担当関係者と早期の退院に向けてよく話し合い支援していききたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に体調の変化があったときは、主治医と連絡を密にとり、家族様、本人様の要望を受け入れ、施設を退所後ご自宅で亡くなられた方もみえる。希望があれば看取り介護も行っている。	重度化や終末期についての指針が作成されている。新型コロナ感染症で尊い生命を失った経験から、職員は、利用者と家族が納得のいく支援及び看取り介護が行えるよう、学びを重ね、より良い支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に備えて、AEDの使い方、人口マッサージを繰り返し訓練し、定期的に今後も行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。今後多様な災害を想定した訓練を行っていききたい。	年2回、事業所独自の防災訓練の計画はあるが、コロナ禍での実施となる為、消防署の協力が得られていない。緊急連絡網の作成や備蓄品の整備、停電時の対応や地域との協力体制作りについて話し合っている。	前回、目標としていた取り組みを継続しながら、災害の種類に応じて、利用者を居室から安全に救助出来るよう訓練を重ねられることに期待したい。また、マニュアル作りや地域との協力体制の構築に取り組みされる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、馴れ馴れしい言葉ではなく、適切な言葉を使うよう、気を付け、利用者様の人権、プライバシーに配慮した言葉かけで心掛けている。	職員は、利用者を「お客様」と捉え、常に尊敬の念をもって対応し、プライバシーの侵害や尊厳を損ねることのないよう適切な言葉遣いと支援を心がけている。また、いつも笑顔で接し職員間で、情報を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から、希望を確認したり思いを汲み取る視点で関わっていくよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合の支援ではなく一人一人のペースに合わせた生活がある事を理解した上で、その都度確認し、要望に添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時、髪の毛をくしでとき、暖かいタオルで顔を拭いていただいている。2ヶ月に1回訪問で美容師の方に来ていただき、全員髪の毛をカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウィルス感染拡大の為、現在のところ食事のお手伝いは中止しています。コロナウィルスが落ち着いた時には、以前のように食事の盛り付け、片付けを一緒に行っていきたい。	献立は法人の管理栄養士が作成し、調理専門の職員が、畑で採れた野菜も利用しながら、彩りのある食事を作り、家庭的な食器で提供している。コロナ禍にあっては、利用者の手伝いや一緒に食することを控え、食事介助に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立をもとに、畑で採れた野菜を使ってメニューに取り入れています。食事量、水分量の少ない人は、申し送り、全員が把握し、好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯の洗浄、口腔ケアを行っている。毎月の歯科医の往診を受け口腔内の清潔保持に努めている。		

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に合わせて、昼間はリハビリでトイレ誘導し、夜間はオムツやポータブルトイレを使用している。スマホにて排泄状況、時間を管理している。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、スマホのアプリを活用しながら、職員間で状況を共有して支援を行っている。昼間は、全員がトイレでの排泄が習慣となっており、夜間は、利用者の状態に合わせて、排泄用品を使い分けたり、要望も聞きながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の中で体操、運動、散歩を行っています。飲食物では、畑で採れた野菜を使った食事、水分も工夫しながら行っている。個々に応じて下剤を服用される方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便汚染があった時は、優先的に入浴していただいている。本人様が希望されない時は、無理に入ってもらわず、曜日を変更し、入っていただいている。	週2回の入浴を基本とし、利用者の意向を聞いて柔軟に支援している。個浴槽と身体機能の低下があっても、安楽に入れる機械浴の設置がある。季節によっても浴槽を使い分けている。入浴順や同姓介助の希望も応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠する時の電気、エアコンの温度、衣服の調整を行っている。眠れない方は話をよく聞き、共感し心が落ち着くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては訪問看護師、職員と連携し報告確認をしています。入居者様の体調の変化は、職員から訪問看護師へ連絡後主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間で入居者様の生活歴を把握し、一人一人の役割、楽しみも職員間で相談しながら支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大の為、外出は中止しています。施設の玄関先で庭に植えてある花を見ながら、お茶をし楽しんでいる。	外出を自粛しているため、花壇や畑で季節の花や野菜を育てたり、周辺の栗林や葡萄畑を眺めるなど、気分転換に繋げている。また、職員は利用者の筋力低下防止のため、リハビリマシン使用を支援したり、レクリエーションを楽しめるよう工夫している。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は新型コロナウイルス感染拡大の為、外出して買い物する事は全くできていません。落ち着いて買い物出来る様になった時には、本人の希望に添った支援を行いたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望されれば電話をし、家族様に定期的に電話を掛けて下さるようお願いしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは定期的に換気をしている。利用者様と一緒に作った作品を掲示したり、季節の花を花瓶にさし、テーブルの上に飾り、季節感を取り入れ工夫している。	ホーム全体に自然素材のぬくもりが感じられ、モダンなデザインが溢れている。利用者が好きな場所で寛げるよう、複数のテーブルや椅子、ソファがほど良い間隔を空けて配置されている。対面式キッチンや職員の事務スペースもあり、作業しながらでも利用者の様子を目配りしやすい配置である。感染予防対策として、次亜塩素酸水専用噴霧器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の近くにソファを設けリラックス出来る場となっている。フロアで体操、テレビをみられたり、話をしたり、思い思いに過ごせる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を置いたり、使い慣れたベットを使用、使用していたテレビを置いたり、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には介護用ベット、クローゼット、洗面台が備えてある。利用者は使いなれた小物や馴染みの物、気に入った衣類や寝具等持ち込んでいる。本人が居心地の良いよう家族の協力を得て、居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに分かりやすく大きな字で、トイレと表示し、居室のドアには目印になる飾り物をつけ、分かりやすいようにしている。状況に合わせて、声掛けをし混乱を招かないよう工夫している。		